

長野県SDGs推進企業登録制度

SDGs取組レベル 結果レポート



企業名	城東冷機サービス株式会社		
業種	建設業	従業員数	5～9名
回答者	松岡美樹	役職	常務取締役

本レポートは、更新に際してご提出いただいた取組レベルチェックシートをもとに、自社のSDGs経営の強み・弱みを「見える化」することで、登録企業の皆様の今後の活動に役立てていただくためのヒントとして発行しています。

結果レポート(2ページ目、SDGs経営ツリーおよび経営実装度を可視化したもの)は、自社HPに掲載することで外部への情報開示にご活用いただいたり、オフィスに掲載して社員の理解を促していただいたり、積極的にご活用いただけますと幸いです。
※結果レポート(詳細)以降のページにつきましては、社内での活用に留め、外部への展開はお控えください。

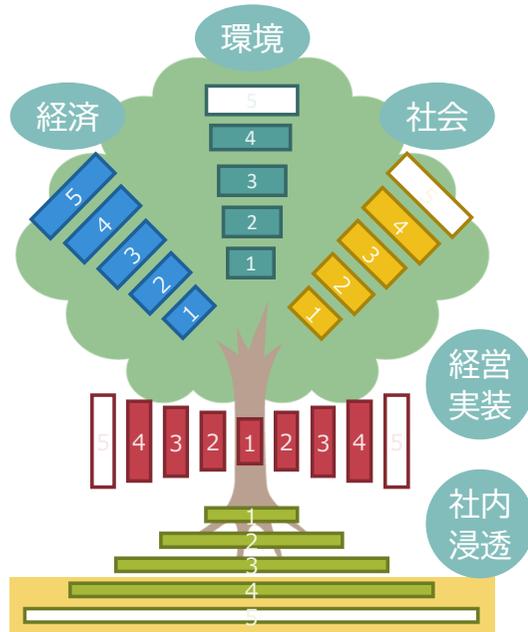
長野県SDGs推進企業登録制度 SDGs取組レベル 結果レポート



発行日：2023/5/8

城東冷機サービス株式会社

SDGs経営の全体像



貴社のSDGs経営ツリー

項目	スコア	レベル
環境	10/13	4
	77%	
経済	12/13	5
	92%	
社会	19/24	4
	79%	
社内浸透	13/15	4
	87%	
経営実装	54/65	4
	83%	

SDGs経営実装度



「経済」に関する取り組みが大変よくできています。社外への発信も積極的に行いましょう。一方で、「環境」に関する取り組みには更なる向上の余地が見られます。木の「根」「幹」ともに十分な土台が作られています。あとは行動あるのみです。結果レポート(詳細)に記載された「今後の取組のためのヒント」も参考に、SDGs経営ツリーの根(社内浸透)、幹(経営実装)、枝葉/花(環境・経済・社会)をバランスよく成長させていくためのアクションを考えてみましょう。

貴社のSDGs経営実装は順調に進んでいます。「SDGsを理解する」ことを念頭に置いた取り組みがよくできています。今後の取り組みに向けては、「目標を設定する」という点について改善の余地があります。明確な目標を定めて進捗を客観的に把握しやすくすることで、行動を加速させましょう。本質的なSDGs経営の実装を推し進めていくために、SDGコンパスに沿ったステップ間のつながりも意識しながら、自社の取り組みを継続的に見直ししていきましょう。

長野県SDGs推進企業登録制度 SDGs取組レベル 結果レポートの読み方

SDGs経営の全体像

貴社のSDGsに対する取り組み状況を、「環境」「経済」「社会」「社内浸透」「経営実装」の5つの観点で評価しています。
全体像は「貴社のSDGs経営ツリー」として視覚的にご覧いただけます。

【SDGs経営ツリー】

企業が目指すべきSDGs経営の全体像を木(ツリー)になぞらえ、貴社の「ツリー」がどの程度育っているかを可視化しています。

<ツリーの要素と項目の対応>

「根」:SDGsに対する取り組みが、社内にどの程度浸透しているか
「幹」:SDGsに対する取り組みが、経営にどの程度取り込まれているか
※「経営実装」の詳細は、レポート右側の「SDGs経営実装度」をご確認ください
「枝葉・花」:「環境」「経済」「社会」に関する取り組みがそれぞれどの段階にあるか

各項目はスコア(得点率)に基づき5段階で評価され、レベルに応じてSDGs経営ツリーのバーが塗りつぶされています。

空白が目立つ項目について今後より力を入れていくことで、地中深く根を張り、太い幹の上に枝葉がバランスよく生い茂る、健全なツリーを育てていきましょう。

【スコア】

SDGs取組レベルチェックシートへの回答をもとに、「環境」「経済」「社会」「社内浸透」「経営実装」の5つの項目ごとの、貴社の得点および得点率を示しています。

【レベル】

各項目の得点率をもとに、貴社の取り組みがどの段階にあるかを1(低)～5(高)の5段階で評価しています。

【フィードバックコメント】

貴社のSDGs経営の全体像に対する総評です。
上手く行動に反映できている/成果につながっている項目や、相対的に今後に向けて改善の余地が大きい項目をお伝えしています。

SDGs経営実装度

貴社のSDGsに関する行動が経営に紐づき、社員の理解・行動によって主体的に体现されているか、本質を捉えた推進体制が整っているかを、SDGコンパスの5つのステップに基づいて評価しています。

【リーダーチャート】

SDGsに取り組む企業の行動指針であるSDGコンパスの5つのステップそれぞれの観点で、貴社の取組がどの程度の状態にあるかを可視化しています。
五角形の面積が大きいほど、SDGs経営の実装が進んでいることを示しています。また、形状が正五角形に近いほど、本質的なSDGs経営の実装に向けて望ましいアプローチが取れていると言えます。
他のステップに比べて得点率が低いステップに対して重点的に対策を講じることで、五角形の面積を効率よく広げていきましょう。
※各ステップは、SDGs取組レベルチェックシートの回答シートに対応しています。
※SDGコンパス(https://sdgcompass.org/wp-content/uploads/2016/04/SDG_Compass_Japanese.pdf)

【経営実装度】

貴社のSDGsに対する取り組みが、経営実装の観点でどの段階にあるかをA(高)～E(低)の5段階で評価しています。

【フィードバックコメント】

貴社のSDGs経営実装度に対する総評です。
SDGコンパスの5つのステップのうち、上手く行動に反映できている観点や、今後に向けてより力を入れていくべき観点をお伝えしています。

【本レポートをご確認いただく際の注意点】

本レポートの評価はあくまで一つの参考値であり、自社のSDGs経営の現在地を客観的に把握することで、今後の更なる活動に繋げていくことが大切です。
仮に結果が思わしくなくても、落ち込む必要は全くありません。今回の更新を新たなスタートラインと捉え、自社の取り組みを見直すきっかけにしましょう。
結果レポート(詳細)では、回答オプションごとに「今後の取組のためのヒント」が記載されています。今後のアクションプランを検討する際にご参考ください。

長野県SDGs推進企業登録制度
SDGs取組レベル 結果レポート(詳細)

問No.	設問	あなたの回答	回答オプションの説明	今後の取組のためのヒント
Step 1: SDGsを理解する				
社会的存在意義(パーパス)の理解				
問1	あなたの組織は、社会における存在意義を理解し、「パーパス」「経営ビジョン」などの形で明確に定義していますか。	<input type="radio"/>	定義している	SDGs経営の実装に欠かせない、自社が実現したい社会の像とその社会像を実現するための自社のあるべき姿を既に持っているため、ネクストステップとして、時間を取り、経営陣だけではなく社員も参加する形でその社会への想いを共有してみましょう。
経営陣のSDGsの理解				
問2	SDGsに対する経営陣の理解度について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/>	経営陣が、SDGsの基本的意義について理解している	SDGsを経営ごととして実装するために必要なSDGsに対する理解が、経営陣の中で既にあるようです。理解を行動に移すべく、継続的な経営メッセージを発信しながら、SDGsの基礎にとどまらず、持続可能な開発に関する歴史的・経済的背景の理解を深める研修の実施も検討してみましょう。
		<input type="radio"/>	経営陣が、SDGsについての研修を受けている	SDGsに関する研修を経営陣で受講していることは素晴らしい一歩です。そこでの学びや発見を具体的な行動に移せるよう、定期的に振り返りや行動計画策定の場を設けてみましょう。
		<input type="radio"/>	経営陣が、SDGsに取り組みないことで生じる経営上のリスクを把握している	リスクの把握は非常に大事なステップです。この把握したリスクを経営陣だけに留めておくのではなく、そのほかの社員にもわかりやすく共有することで、自身の業務と結び付けられるようにしてみましょう。
		<input type="radio"/>	経営陣が、SDGsに取り組むことで生まれる経営上のチャンスを把握している	チャンスの把握は非常に大事なステップです。この把握したチャンスを経営陣だけに留めておくのではなく、そのほかの社員にもわかりやすく共有することで、自身の業務と結び付けられるようにしてみましょう。
従業員のSDGsの理解				
問3	SDGsに対する従業員の理解度について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/>	従業員に向けて、日々の業務の中で、SDGsやSDGsに関する自社の取り組みを周知している	SDGsに関する社内コミュニケーションができています。ネクストステップとして、社員が発信されるメッセージをどのように受け取っているか、どのような具体的な行動に繋がっているのか否か、検証してみましょう。
		<input type="radio"/>	従業員に向けて、SDGsに関する研修を実施している	研修を受けた従業員は、SDGsの基礎及び、持続可能な開発に関する歴史的・経済的背景の理解が深まっていますか？一人ひとりがSDGsをより身近に感じられるように、自分の業務とSDGsが結びつくように考える機会も提供してみましょう。
		<input type="radio"/>	SDGs推進企業登録後の3年間で、従業員のSDGsの理解度を確認した	従業員の理解度はいかがでしょうか？SDGsを知っていても、自身の業務や経営戦略と結びついていないというケースはありませんか？SDGsに関する基礎理解→SDGsと経営戦略の繋がりがSDGsと自業務の繋がりがそれぞれ明確になっているか再度確認をしてみましょう。
		<input type="radio"/>	従業員のSDGsの理解度を定期的・継続的に確認する仕組みを設けている	定期的に進捗を把握できているようです。そこからの発見は経営陣や従業員に共有できていますか？現状を踏まえたネクストステップが設計できているか、確認してみましょう。

Step 2: 優先課題を決定する

「環境」に与える影響の把握

問1	自社の事業が「環境」に与える影響について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/>	プラスの影響を把握している	自社事業が環境の保全や発展に対してもたらすプラスの影響を把握できているので、それらを強化する、そして発信することも考えてみましょう。
		<input type="radio"/>	マイナスの影響を把握している	自社事業が環境の保全や発展に対してもたらすマイナスの影響を把握できているので、それらに対処することを考えてみましょう。
		<input type="radio"/>	影響度を測定する際の基準となる指標を定めている	選んだ指標が環境に対するプラスとマイナスの影響の双方をカバーできているか、確認してみましょう。

「経済」に与える影響の把握

問2	自社の事業が「経済」に与える影響について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/>	プラスの影響を把握している	自社事業が経済に対してもたらすプラスの影響を把握できているので、それらを強化する、そして発信することも考えてみましょう。
		<input type="radio"/>	マイナスの影響を把握している	自社事業が経済に対してもたらすマイナスの影響を把握できているので、それらに対処することを考えてみましょう。
		<input type="radio"/>	影響度を測定する際の基準となる指標を定めている	選んだ指標が経済に対するプラスとマイナスの影響の双方をカバーできているか、確認してみましょう。

「社会」に与える影響の把握			
問3	自社の事業が「社会」に与える影響について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> プラスの影響を把握している	自社事業が社会に対してもたらすプラスの影響を把握できているので、それらを強化する、そして発信することも考えてみましょう。
		<input type="radio"/> マイナスの影響を把握している	自社事業が社会に対してもたらすマイナスの影響を把握できているので、それらに対処することを考えてみましょう。
		<input type="checkbox"/> 影響度を測定する際の基準となる指標を定めている	自社事業が直接的、あるいは間接的に社会に与えるプラスおよびマイナス面で把握したうえで、与える影響の経年変化を正確に把握するための客観的な指標は何か、探してみましょう。

優先的に取り組む社会課題の設定			
問4	自社の事業が「環境」「経済」「社会」に与える影響を把握したうえで、自分たちが優先的に取り組む「社会課題」を設定していますか。	<input type="radio"/> 設定している	設定した社会課題が自社事業が影響を及ぼす環境・経済・社会課題にどのように紐づいているか、再度考えてみましょう。
		<input type="radio"/> 設定しており、かつ、それがSDGsと紐づいていることを明確にしている	設定した社会課題が自社事業が影響を及ぼす環境・経済・社会課題にどのように紐づいているか、SDGsの観点、特に169ターゲットの粒度で考えてみましょう。

Step 3: 目標を設定する

社会課題解決に向けた施策と目標の設定

問1	社会課題に対して企業として行動を起こしていくための、施策と目標の設定状況について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 自社が優先的に取り組む社会課題の解決に向けて、自社の事業の一部としての施策を設定している	自社事業が成功することで、定義した社会課題にどのような影響をどの程度及ぼすことができるのか。その社会課題が解決されるかストーリーを明確化してみましょう。
		<input type="radio"/> 設定した施策は、企業の中長期的な(1~5年程度の)活動指標に落とし込まれている	中長期的な戦略に紐づく数値目標は、定義した社会課題と紐づいているか、再度確認してみましょう。
		<input type="checkbox"/> 設定した施策は、企業の短期的な(日ごと~月ごとの)目標に落とし込まれている	各年ごとに作成された全社の目標をより詳細に、毎月の目標数値に具体的に表現してみましょう。
		<input type="checkbox"/> 設定した施策と目標は、従業員一人ひとりの日々の業務に落とし込まれている	全社としての目標を部門ごと、さらに部署ごとに分け、個人レベルでの具体的なアクションに因数分解してみましょう。
		<input type="radio"/> 設定した施策と目標は、自社の社会的存在意義(＃1における「パーパス」「経営ビジョン」、「経営理念」など)に対して一貫したもになっている	目標を達成することが、自社の社会課題に対する影響を最大化しているか。またその取り組みは自社の社会的存在意義(STEP1 問1)につながっているか、確認してみましょう。

施策間の関係把握

問2	会社として定めた施策群について、施策間の関係性を考慮できていますか。	<input type="radio"/> 施策間の関係性を考慮している	各施策を担当する部署や担当者に対して、全社における施策間の関係性が伝わっているか、確認してみましょう。
----	------------------------------------	--------------------------------------	-----------------------------------------------------

Step 4: 経営に統合する

企業行動とSDGsのつながりの「自分ごと化」

問1	自社の社会的存在意義(≒「パーパス」「経営ビジョン」「経営理念」)、中長期的な経営戦略、SDGsのつながりについて、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 経営陣は、自社の社会的存在意義、中長期的な経営戦略、SDGsを紐づけている	これらの紐づきを、経営陣をはじめ全ての従業員が自分の言葉で語るができるか、考えてみましょう。
		<input type="radio"/> 経営陣は、自社の社会的存在意義と経営戦略、SDGsのつながりを、従業員に向けて定期的に発信している	発信した内容が、受け手によって理解された後、どのような行動に結びついているか考えてみましょう。
		<input type="radio"/> 自社の社会的存在意義と経営戦略、SDGsのつながりについて、従業員の理解を促進するための施策を行っている	従業員の理解が深化した後、どのような行動変容が生まれているか、確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 従業員は、日常業務や部署の役割がSDGsにどのようにつながっているかを理解しており、自らの業務が企業の行動としてSDGsに影響を与えるのだという感覚が「自分ごと化」されている	「自分ごと化」された内容はチームや部署内で積極的に発信できているか、確認してみましょう。

SDGs経営に基づく事業設計			
問2	自社が行っている事業について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 既存事業は、自社の社会的存在意義を体現し、SDGsの達成に貢献するものになっている	SDGsの達成に事業がどのように貢献できているか、より多くの社員が自分の言葉で語れるようになっているか、確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 既存事業は、自社の社会的存在意義とSDGsに照らし合わせ、定期的に見直しが行われている	既存事業が定期的に見直されている中で、事業の重要な成功要因も、必要に応じて更新されているか、確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 新規事業を立ち上げる際は、それが自社の社会的存在意義を体現しているか、SDGsへの貢献につながるかを精査している	SDGsへの貢献が、その事業の財務的成功といかに紐づくか、明確化をしてみましょう。

SDGs観点での経営評価			
問3	自社の経営評価体制について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 第三者機関から、SDGsの観点で定期的な評価を受けている	第三者機関からの評価を既に受けているのは素晴らしい取り組みです。評価や認証を受けて終わりではなく、その評価を基にネクストステップを考察しているか、考えてみましょう。
		<input type="radio"/> 経営陣によって、SDGsの観点で経営評価がなされている	経営陣の議論内容をふまえ、具体的な行動が起きているか確認してみましょう。そしてその議論内容が透明性をもって従業員に共有できているかも確認してみましょう。
		<input type="radio"/> SDGsの観点での経営評価が、従業員に向けて公表されている	自社のSDGs経営における現在地を公開することに加え、それをふまえた具体的な施策も共に公表をしてみましょう。

SDGs経営実装のためのステークホルダーの特定			
問4	SDGsへの取り組みを進める体制について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 社内にSDGs推進専門の部署を設けている(または推進担当者を設けている)	SDGs・サステナビリティ関連の取り組みについて、すべて担当者にまかせっきりになっていないか確認し、必要に応じた社内パートナーとの協業ができているか確認してみましょう。
		<input type="radio"/> SDGs推進部署/担当者の設置に加え、会社全体として、SDGsへの取り組みを推進する体制を整備している	SDGs・サステナビリティ推進担当以外の社内パートナーがSDGsに関連する取り組みを行うことを、正当に評価する仕組みがあるか確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 経営者が自ら担当している(個人事業主等に該当する場合を含む)	-
		<input type="radio"/> SDGsへの取り組みにおいて、連携すべき社外のパートナーを選定している	社外パートナーを選ぶ際に、パートナーとなることで直接的に得られる価値だけでなく、そのパートナーの理念などがSDGsと繋がっているのかも確認してみましょう。

Step 5: 報告とコミュニケーションを行う
社会への発信(主体)

問1	SDGsへの取り組みや自社事業との繋がりについて、誰が社外発信を行っていますか。当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 経営リーダーが発信している	経営リーダーが社外に発信した内容は、従業員を含む社内外の誰に届いているか検証してみましょう。
		<input type="radio"/> SDGs推進担当が発信している	SDGs推進担当が発信したことにより、誰にメッセージが届き、それはどのような影響を自社にもたらしているかを検証してみましょう。
		<input type="radio"/> 企業広報が発信している	経営陣や推進部門から、自社のSDGsへの貢献ストーリー(「自社は〇〇な社会の実現に貢献すべく、〇〇といった事業などの取り組みを行っており、結果として〇〇のようなSDGsに貢献している」)を共有してもらい、その流れを分かりやすくまとめた資料を作成してみましょう。そして作成したものを自社ウェブサイトやSNSなどで戦略的に発信をしてみましょう。

社会への発信(内容)			
問2	SDGsへの取り組みや自社事業との繋がりを社外発信の際の内容について、当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> 目標に対する進捗状況を、データを基に客観的に報告している	客観的に報告したことで、情報の受け手が自社のSDGs経営の現在地を知ることだけでなく、その現状から何をすることでより前進しようとしているかが伝わっているか、確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 「環境」「経済」「社会」に対するプラスの影響を報告している	プラスの影響を報告したことで、情報の受け手が自社を特異な存在として認識できているか、情報を発信して終わりになっていないか検証してみましょう。
		<input type="radio"/> 「環境」「経済」「社会」に対するマイナスの影響を報告している	自社事業の価値創出の流れから生まれるマイナスな影響を分かりやすく「環境」「経済」「社会」のカテゴリに分類をしてみましょう。そしてその内容を「自社がこれから立ち向かう課題」として可能な限り社外に共有をしましょう。

社会への発信(形式)			
問3	SDGsへの取り組みや自社事業との繋がりを、どのような形式で社外発信していますか。当てはまるものを全て選択してください。	<input type="radio"/> サステナビリティ報告書(統合報告書等)またはそれに準じる刊行物を発行している	発行した刊行物が、どこの誰に届きそれはどのような影響をもたらしているか、効果測定が行えているか確認してみましょう。
		<input type="radio"/> 正規の報告書だけでなく、様々なチャネルを活用して広くSDGsに関する取組みを発信している	活用しているチャネルがそれぞれ誰に対してどのようなメッセージを届けることに繋がっているか、発信して終わりになっていないかを確認してみましょう。

1. SDGs経営とは

①SDGsの取組のこれまでとこれから

SDGs経営とは、自社の事業を通じて社会課題を解決する取り組みです。

これまでの企業・自治体のSDGsに関する取り組みの多くは、既存事業の延長線で考えられていたり、あるいはCSRの域を出ないものでした。

今後目指すべき本質的なSDGs経営とは、SDGsの取り組みが経営/活動計画に統合され、企業が社会課題の解決に取り組む結果として、事業業績が最大化されるような経営体制を指します。

これまで（2016年-2020年）

SDGsの普及

それぞれの立場でできることとSDGsの取組を紐づける

企業

既存のバリューチェーン内でできることに取組む
（例：フェアトレード商品に切り替える）

これから（2021年-2030年）

“行動の10年（Decade of Action）”

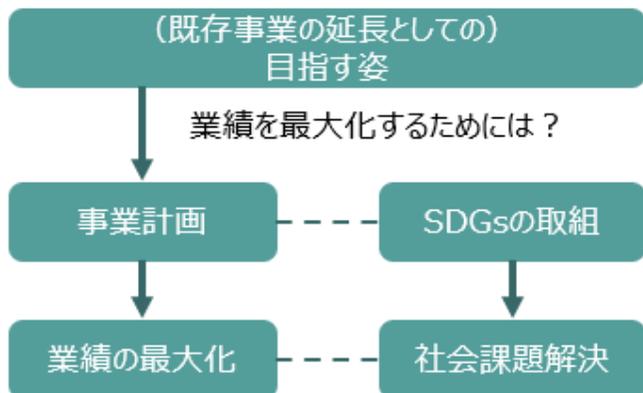
SDGsの達成に向けて行動を抜本的に見直す



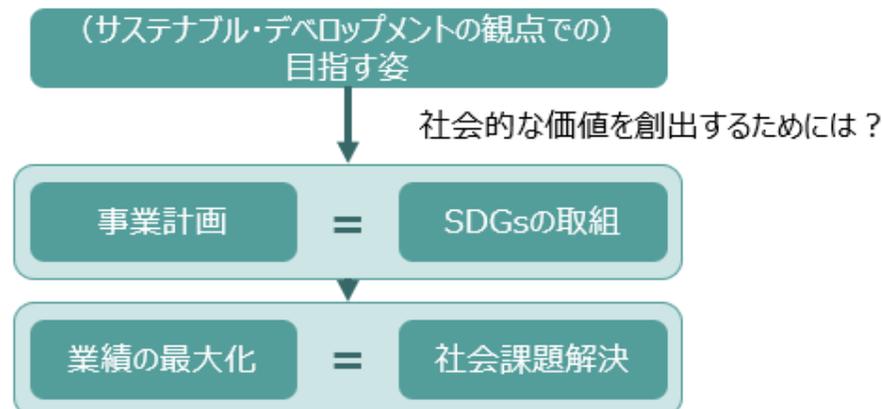
企業

サステナブル・デベロップメント*の考えに基づき、ビジネスモデルや経営の在り方を抜本的に変えていく

For Profit



For Society



②企業がSDGsに取り組む意義

SDGsに取り組むことは、リスクとオポチュニティ(機会)の観点で、中長期的に企業の本分である業績の最大化と合致することが、数字としても表れてきています。

リスク

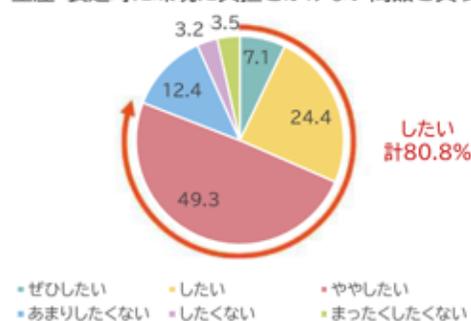
SDGsに取り組まない企業は、顧客、未来の従業員、投資家、ひいては社会から選ばれなくなる

オポチュニティ(機会)

本質的なSDGs経営を推し進めることは、企業価値の向上や新たなビジネスチャンスの獲得につながる

新たな消費者行動の出現

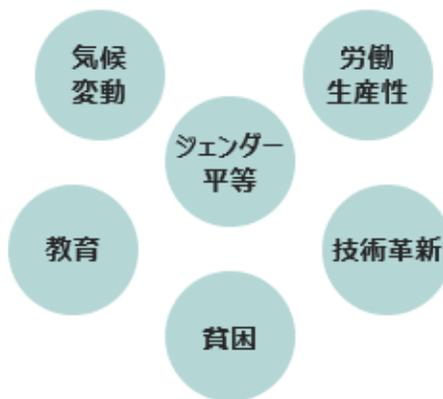
生産・製造時に環境に負担をかけない商品を買う



出典: ㈱マクロミル調べ「生活者のサステナブル購買行動調査」
2019年3月14日・20日全国20~60代男女n=6000

- 未来世代(ミレニアル世代・Z世代)の価値観や消費者行動が変わりつつある
- 先進企業はその動きに反応し、すでにアクションを起こしている

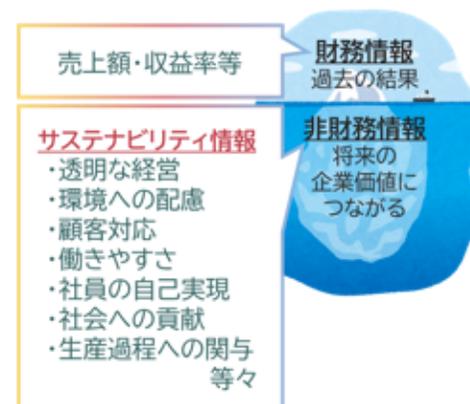
VUCA時代の新市場の出現



SDGsによってもたらされる市場機会
年間1200兆円

2030年までに世界で
創出されるSDGs 関連雇用
約3億8000万人

企業価値(投資価値)の向上



2020年のESG投資額
約3,900兆円
(全運用資産の35.9%)

- サステナビリティの観点で、企業の客観的評価のベースに

2. SDGコンパスとは

SDGs取組レベルチェックシートは、SDGコンパスをベースに作成されています。

SDGコンパスとは、2015年に国際的NGOのGRI、国連グローバルコンパクト、WBCSDの三者によって作成され、SDGsに取り組む企業の行動指針として国際的に認知されています。SDGコンパスでは、企業がSDGsにどのように取り組むべきかを、STEP1～5の5段階で示しています。

SDGコンパスの5ステップ

- 法令順守/基本的人権の尊重がなされているという前提のもと、企業がSDGsに最大限貢献するための5ステップの指針を提示



SDGコンパスの特徴（アプローチ）

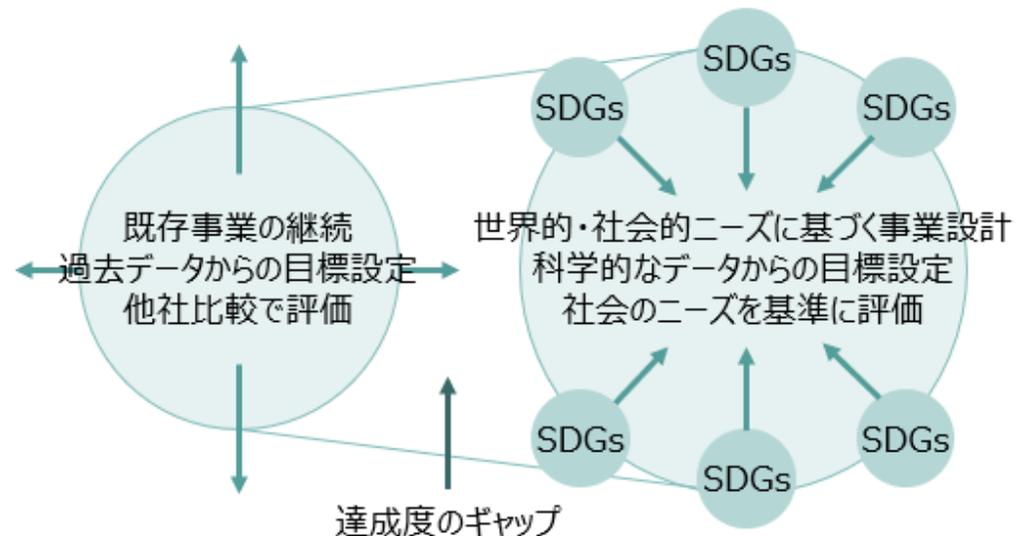
- 本質的なSDGs経営実装のために、インサイド・アウトよりもアウトサイド・インの考え方を重視しているところが特徴

インサイド・アウト・アプローチ

内部中心的なアプローチでは、世界的な議題に対処することが難しくなっている

アウトサイド・イン・アプローチ

世界的・社会的ニーズから逆算して目標設定することで、現状との達成度のギャップを埋めていく



3. 持続可能な開発(サステナブル・ディベロップメント)とは

SDGs(持続可能な開発目標)の「持続可能な開発」とは、「経済活動が短期的に消費者と生産者に及ぼす量・質的变化に加え、自分の周りにいない他者とその経済活動が、社会の過去と未来に及ぼすすべての影響を総括的に判断したうえで評価される発展」を意味します。これは、SDGs17の目標全てに通ずる考え方で、SDGsを理解する上で非常に重要です。

これまで私たちは経済活動の成功を「Growth(成長)」と「Development(発展)」の2つの側面から捉えてきました。Growth(成長)は「量的な変化」を意味し、国の経済規模を表すGDPや、成長率が何%であったかといった指標が代表的です。一方Development(発展)は「質的な変化」に焦点を当てたものであり、経済が量的に「成長」していたとしても本当に私たち市民一人ひとりの生活の質が向上しているのか、に対応する概念です。「Growth(成長)」も「Development(発展)」も重要な指標ですが、両者は「変化として考慮している時間軸が短期的なもの」であり、より世界規模で、あるいは長期的な視点に立って、環境・経済・社会に与える影響を見ることはできません。持続可能な開発は上述の通り、時間軸としても、物理的な影響範囲としても、より総合的な影響を判断したうえで、その経済活動の価値を判断する指標といえます。

